

歯周病(歯槽膿漏)について

I. 歯周病の原因・・・感染症

歯周病はう蝕(虫歯)と並び歯科の二大疾患の一つですが、いずれも細菌による感染症であることが分かっています。

口の中には300～400種類の細菌が存在していますが、その中で特に歯周病原菌となる特異な細菌が3種類程あります。その細菌が歯周ポケット(歯と歯ぐきの境目)の中で増殖すると歯肉がはれ、歯茎から血が出るようになります。さらに悪化すると歯槽骨(歯を支える骨)の破壊をおこし、歯がぐらついてきます。

II. 歯周病の進行パターン・・・老化現象ではない

成人の歯周病は、30歳ぐらいから自覚症状もなく発症し、適切な処置を行わない限り加齢とともに進行します。しかし病状の進行はリスクファクター(危険因子)によるものであり、

「ストレス」「糖尿病」「薬剤の服用」「不良な歯の治療」「喫煙」

などが挙げられ、「加齢」による疾患というわけではありません。歯周ポケット内の細菌を減らし、リスクファクターを減らすことで歯周病の進行を抑えることができます。

III. リスクファクター・・・減らしましょう

歯周病は、細菌感染による炎症性疾患です。歯周病を急速に悪化させる因子として、局所的因子と全身的因子があります。歯周病の治療を進めるためには危険因子の要因を減らさなければ治療しても再発を繰り返すこととなります。

局所的因子	全身的因子
<ul style="list-style-type: none">・特異な歯根形態・歯並びの不正・噛み合わせの異常・異常習癖(はぎしり、かみしめ)・不良な歯の詰め物	<ul style="list-style-type: none">・内科的疾患(糖尿病、膠原病、リウマチ)・薬の副作用(一部の抗てんかん薬、狭心症予防薬)・ストレス(精神的、肉体的)・ホルモンの異常(妊娠、更年期障害、骨粗鬆症)・喫煙、多量の飲酒・不規則な食生活と栄養バランスの不良

IV. 歯周病の治療・・・メンテナンス(維持)が必要です

歯周病の直接の原因はプラック(歯垢:細菌の集合体)です。治療はプラックの除去、つまりプラックコントロール(歯磨き)から始まります。歯磨きは要領よく行わないと多くのプラックを磨き残してしまいますし、一度除去されても24時間で再び凝集してしまいます。自分でプラックコントロールをしっかりと行わなければ、歯科治療を行っても効果が期待できません。

また歯科医院での治療は深い歯周ポケットがある部位に対して、口の中を上・下各々の右奥歯・前歯・左奥歯・と6回に分けて歯石の除去を行ないます。また局所のリスクファクターを減らすことも同時に行ないます。

治療後に再度検査を行いその後の治療方針を決めますが、大切なことは治療によって得られた状態を維持し、再発を防止するためにも定期検診(3ヶ月から1年毎)による観察を怠らないことだといえます。

